

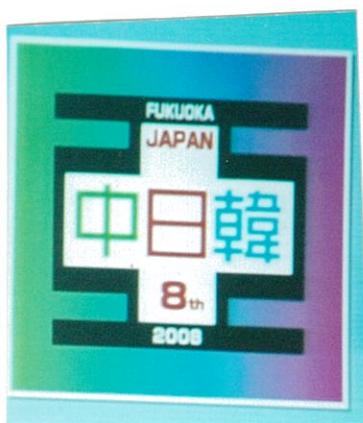
放送人の会

No. 38
2008・10・20

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館 3階

Tel&fax 03-3221-0019 E-mail info@hosojin.com

代表幹事 今野勉 編集担当 伊藤雅浩、鈴木典之、松尾羊一



(日韓中フォーラムの新しいロゴ)



(東アジアの若者たちは今・討論風景)

08年大会の特色出席した制作者たち全員による投票で参加作品を評価したこと。シンポジウムではブロードキャストにとどまらないコミュニケーション・ラифを共有する若者たちの動向と可能性について『東アジアの若者たち』に焦点をあてたこと。また、作品をジャンル別鑑賞とせず、全員がすべて鑑賞できる上映方式に統一したこと。この3点が機能し、成功裡に終わった大会であった。

(編集部)

主催 日韓中テレビ制作者フォーラム組織委員会（日本）放送人の会、放送番組センター、放送批評懇談会（韓国）韓国放送PD联合会、韓国放送人会（中国）中国電視芸術家協会
後援 総務省、外務省、経済産業省、文化庁ほか
協賛 日本民間放送連盟、日本放送協会、放送文化基金、日本自転車振興会
協力 福岡市 在九州各放送局

(会場の日韓中各国の制作者たち)



(協賛 日本自転車振興会のロゴ)



第8回日韓中テレビ制作者フォーラムは9月24日から27日までの4日間、韓国・日本でのフォーラムを立ち上げた地・福岡（アクロスビル・国際会議場）で開催された。

日本側参加者（延べ人数）60名余り
韓国 41名 中国 30名
おもい起こせば21世紀幕開けの年に、歴史認識をテーマに両国の制作者たちが釜山―博多間のフェリー船を会場にして激しい論戦を戦わせた記念すべき地に再び戻ってきた大会である。

その間、中国の放送人たちの参加を得て文化的磁場を共有しつつ、東アジアの放送文化構想を掲げて8回目を迎えたのである。

その間、中国の放送人たちの参加を得て文化的磁場を共有しつつ、東アジアの放送文化構想を掲げて8回目を迎えたのである。

開会式（10月24日）

まず国際フォーラムの生みの親の一
人である鄭秀雄（チヨン・スーイントン）常
任組織委員長が「第8回フォーラムは日
韓中の順に開催され、原点である福岡に
戻ってきた。3国は国情の差異をハーモニ
ーで克服し、東アジアの番組を世界に
発信し、テレビに新しい風を吹かせよう
ではないか」と呼びかけた。

大山勝美氏（放送人の会特別顧問）は「發

祥の地である福岡では、内容重視、実質
本位のフォーラム、第1は実力本位の番
組コンテスト、第2に各国の若者世代に
メディアはどう取り組むか。若者をテー
マに未来を語ることを期待したい」と述
べた。

また発足時から3国放送界の交流に

つとめた志賀信夫氏（放送批評懇談会名
誉会長）は「日本には『近所』という言葉
があるが、グローバル時代にあってこそ
『ご近所の底力』が有効に發揮される。
懸案の共同制作のあり方について模索
してゆきたい」と期待した。

ついで会場には居並ぶ各国放送界の

重鎮の祝辞が続く——登壇順に
崔彰鳳（チエ・チャンボー）韓国放送人
会理事長、黎鳴（リ・ミン）中国TV芸
術家協会副主席、金榮希（キム・ヨンギ
ギヨアイン）中国芸術家協会副主席、孫建
熙（チヨ・ヌンヒ）氏。

「この1年間
の韓国の放送情況
は激変の連続でし
た。制作費が1話あ
たり約200万ド
ルで、総額40000万ドル投入されたド

ここで福岡

大会の運営を
取り仕切る村
上雅通氏（熊
本放送）が本



木村栄文氏



ここで三輪嘉六九州国立博物館館長
の基調講演があつた。

「平成17年10月、
九州・大宰府の地
で、九州国立博物
館が開館した。開
館からこれまで

の間に約520万人の入館者があり、日
本の多くの文化
博物館としては盛況の中で推移し
ている。この博物館が掲げた基本コンセ
プトは『日本文化の形成をアジア史の觀
点からみる』である。日本の多くの文化
はいつの時代にあっても中国・韓国との
深い関わりの中で形成されてきたこと
を踏まえたうえでの博物館のコンセプ
トである。このことを多くの博物館利用
者は十分に認識し、理解し、十分に楽し
んでもらえた結果としての520万人
と自負している。近隣諸国との文化交
流のあり方を考えたとき、こうした分か
り易さを正面において相互に問題点を
整理していくことの大しさを経験し

た。」

ついで各国放送事情の事例紹介に移
り、最初は韓国MBC時事教養局・趙能
喜（チヨ・ヌンヒ）氏。

「この1年間

のTV祭典」と呼ばれるオリンピックの

幕し、全世界のTV視聴者は「世界

のOlympic Games」と呼んでいた。

このOlympic Gamesは、

作品コンクール

参加作品

【日本】

▲NHKスペシャル・ドラマ「感染爆発～パンデミック・フルーム」(NHK)

▲ドキュメンタリー「やねだん」(南北日本放送) ▲ドラマ「ハケンの品格」(日本テレビ) ▲ドラマ「ラスト・フレンズ」(フジテレビ)

【韓国】

▲教養番組「東と西」 ▲ドキュメンタリー「神の子供たち」 ▲ドラマ「コーヒー1・プリンス1号店」 ▲ドラマ「ジャングル・ファイッシュ」

【中国】

▲自然ドキュメンタリー「森林の歌」 大砂漠のコヨウ」 ▲ドラマ「金婚」 ▲ドラマ「奮斗」 ▲音楽番組「08年新春コンサート～多彩な内蒙古」

以上がコンペ対象作品。以下はコンペ対象外作品。

【日韓中共同制作作品】

(同じテーマを各国が制作、放送) ▲「非常な成長2007」(大連テレビ局) ▲「家族」(釜山テレビ) ▲「家族のかたち～いまどきの若者」(西日本放送) の紹介コーナー。

【非エンタリー参考作品】

(一般市民鑑賞)

▲Nスペ「夫婦で挑んだ白夜の大岸壁」(NHK) ▲「学校へ行こう!」(TBS) ▲「枝梅」(アナウンサー養成院) (韓国) ▲「崖の上の夫婦小学校」(喜耕田さんの物語) (中国)

作品コンペは出席した全員による投票を参考に各審査委員

(日本側は河野尚行、松尾羊一) が選んだ結果、左記の結果となつた。

グランプリ

「やねだん」(南日本放送)



有山貴史氏



審査風景

講評・河野尚行氏

出席制作者全員による投票(一次審査)という初めての試みはスリリングでした。88票中有効票83票、点数は全体

総計で279点あり、そこからまず賞対象6作品をえらんだ。たまたま韓中3国が2作品ずつ選ばれてバランスがとれた。問題は多数決を評価しつつも、グランプリは必ずしも数に影響されない

選考委の90分にわたる激論のおとしどころをどこに求めるか。

面白い特徴がある。一つは自国作品にこだわらない態度が各国共通に感じられたこと。いま一つは作品の意図、作りの完成度など制作者と会場の意見交換が選考の動機に大きくかかわったことだ。そのことが83人の票と審査委員会の最終決定にも一致した着地点だった。

「金婚」(中国・北京TV)
「ジャングル・ファイッシュ」(韓国・KBS)



山縣由美子
講評・河野尚行氏



山縣由美子

フォーラムを終えて鹿児島に戻りました。鹿児島に接近中の台風15号にすぐ現実のひき戻されました(笑) ですから、グランプリ受賞がますます夢でもみたように感じられます。みなさま、大きな機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

「やねだん」の人々の姿はきっと県境も越えて人を勇気づけてくれる」と信じて番組を制作したのは確かです。でも「県境も国境も越えてみてください」というあり得ないことが実現したのは初めてです(笑)

上映が終わるまで不安でしたが、上映後、韓国、中国、日本のどの国の方も、まるで旧知の友人だったかのように安心した笑顔で話しかけてくださったのには、驚き、感激しました。そしてつくづく、テレビの可能性を感じたのです。テレビは「雰囲気」とか「登場人物の人柄」といった生身のものも伝えてくれます。制作者が「よりよい世界にしたい」という思いをお互いにもつていれば、その思いは伝わるのでは?そんな可能性を信じたいと思います。

鈴木典之さん、村上雅通さん、そして、鹿児島の大先輩、大山大会委員長をはじめ、会のみなさまに心から感謝いたしました。みなさまのご厚情に感謝を忘れず、私たちもベストを尽くしてまいります。ありがとうございました。



羅琴氏

「森林の歌」(中国・中央電視台)



李承俊氏

「神の子供たち」(韓国・独立プロ)

有山貴史氏

考の動機に大きくかかわったことだ。そのことが83人の票と審査委員会の最終決定にも一致した着地点だった。

考の動機に大きくかかわったことだ。そのことが83人の票と審査委員会の最終決定にも一致した着地点だった。

作品賞のトロフィー



シンポジウム

「東アジアの若者たちは今」

司会を終えて 今野 勉

シンポジウムのテーマは「若者」。フオーラムの常任委員長鄭秀雄氏の提案であった。北京オリンピックが終わり、ピックを開催した国として共通の条件が整い、経済的発展の度合いも急速に近くなり、それに伴つて、若い世代の問題が3カ国に共通するものになってきたのではないか、というのが鄭氏の提案の理由であった。

そして、若者が3カ国共通の問題点となるなら、かねてからの懸案である共同制作のテーマになるのではないか、といふのが鄭氏のもう一つの狙いであった。シンポジウムは、各国から若者を題材としたドラマ番組を1作ずつ出品してもらい、その番組を手がかりに各国のテレビがとらえた若者像やこれからネット社会の中での若者とテレビの関係を論じることにした。

パネリストは8人。各ドラマの制作担当者が3人。各国の若者事情に詳しい制作者が3人。テーマ提案者の鄭秀雄氏。

日本からの番組は「ラスト・フレンズ」(フジテレビ)、デート・バイオレンスと性同一性障害を扱つた重い内容のドラマだった。

パネリストとして出席したのはプロデューサーの中野利幸氏。あえてこの重い題材に挑んだのは、総務省の調査で、D-TVが若者の間で大きな問題になつた直後に行つた私たちの福岡大会は、東アジアで共に生きるというスローガンの下で、日韓中三か国の若者たちが、はたしてどのような共通点と違

つていると知つたことからだつた。

韓国の受験戦争を題材にした「ジャングル・フィッシュ」、中国の服飾デザインを学ぶ女子学生とその恋人たちの奔放な恋愛模様を日本のトレンディードラマ風に描いた「奮斗」と日本の「ラスト・フレンズ」は印象が大きく違うが、ケイタイやインターネットがドラマの展開にひんぱんに使われているのは共通だつた。その点に関して中野氏は、中國や韓国での使われ方は意思の交流の道具としてであるが、日本の場合は、むしろ、意思交流の拒絶や不可能性を表現するものとして使われている、という指摘は興味深かつた。

また、観客席からの発言者としてお願いしてあつた中町綾子氏(日大芸術学部准教授)によれば、「ラスト・フレンズ」は日本の若者たちには「痛い」ドラマとして受けとめられたという。見ながら、シンポジウムは、各国から若者を題材としたドラマ番組を1作ずつ出品してもらい、その番組を手がかりに各国のテレビがとらえた若者像やこれからネット社会の中での若者とテレビの関係を論じることにした。

2008福岡大会共同宣言

日本のアジアへの玄関である福岡で、

2008年9月24日から27日までおこなわれた第8回日韓中テレビ制作者フオーラム福岡大会で、私たちはその意義として、ここ10年間テレビを見たことがないという社会学者の鈴木謙介氏。

日本からの番組は「ラスト・フレンズ」(フジテレビ)、デート・バイオレンスと性同一性障害を扱つた重い内容のドラマだった。

パネリストとして出席したのはプロデューサーの中野利幸氏。あえてこの重い題材に挑んだのは、総務省の調査で、D-TVが若者の間で大きな問題になつた直後に行つた私たちの福岡大会は、東アジアで共に生きるというスローガンの下で、日韓中三か国の若者たちが、はたしてどのような共通点と違

う、日本社会の閉塞性を表している現象なのかもしれない。

社会学者の鈴木謙介氏は、中国や韓国

の若者ドラマには教育の問題が出てくるがそれは発展途上国として将来の可能性があるからで、日本の若者ドラマにはもはや夢はなくなつていて、という指摘は重かつた。ちなみにテレビを見ないかといえば、それはインターネットを通じてでもAクラスで、また翻訳スーパーもすばらしい出来であつたことだ。別の機会でも同じような体験があつた。

鈴木氏がなぜテレビ事情を知つているかといえば、それはインターネットを通じてだという。情報という面だけでいえばテレビとネットは敵対関係ではなく

補完関係にあるという。

今回、私が最も驚かされたのは、中

國の「奮斗」で描かれた若者像が北京の現在の典型的なものだとパネリストのツアン・ウエイという若い女性が言い切ったことである。そしてツアン・ウエイの点をもつて21世紀に向かつているのかを、それぞれの番組を通じて認識し、共同制作番組を通じて未来へ志向する若者像を模索してみました。

3、日韓中テレビ制作者フオーラム大賞を実施することにより、作品の質を競うという要素を加味し、名実ともに国際的に権威ある大賞へと発展させ、我々のフオーラムが三か国の人々の幸福と平和と調和に寄与する模範的なものとなるようベストを尽くします。

2、北京オリンピックが大成功に閉幕した直後に行つた私たちの福岡大会は、

東アジアで共に生きるというスローガンの下で、日韓中三か国の若者たちが、はたしてどのような共通点と違

う、日本社会の閉塞性を表している現象なのかもしれない。

社会学者の鈴木謙介氏は、中国や韓国

の若者ドラマには教育の問題が出てくるがそれは発展途上国として将来の可

能性があるからで、日本の若者ドラマにはもはや夢はなくなつていて、という指

摘は重かつた。ちなみにテレビを見ない

かといえば、それはインターネットを通じてでもAクラスで、また翻訳

スーパーもすばらしい出来であつたこ

とだ。別の機会でも同じような体験があつた。

鈴木氏がなぜテレビ事情を知つているかといえば、それはインターネットを通じてだという。情報という面だけでいえばテレビとネットは敵対関係ではなく

補完関係にあるという。

今回、私が最も驚かされたのは、中

國の「奮斗」で描かれた若者像が北京の

現在の典型的なものだとパネリストの

ツアン・ウエイという若い女性が言い切

ったことである。そしてツアン・ウエイ

の点をもつて21世紀に向かつている

のかを、それぞれの番組を通じて認識

し、共同制作番組を通じて未来へ志向

する若者像を模索してみました。

3、日韓中テレビ制作者フオーラム大賞

を実施することにより、作品の質を競

うという要素を加味し、名実ともに国

際的に権威ある大賞へと発展させ、

我々のフオーラムが三か国の人々の

幸福と平和と調和に寄与する模範的

なものとなるようベストを尽くします。

2、北京オリンピックが大成功に閉幕

した直後に行つた私たちの福岡大会は、

東アジアで共に生きるというスローガンの下で、日韓中三か国の若者たちが、はたしてどのような共通点と違

う、日本社会の閉塞性を表している現象なのかもしれない。

社会学者の鈴木謙介氏は、中国や韓国

の若者ドラマには教育の問題が出てくるがそれは発展途上国として将来の可

能性があるからで、日本の若者ドラマにはもはや夢はなくなつていて、という指

摘は重かつた。ちなみにテレビを見ない

かといえば、それはインターネットを通じてでもAクラスで、また翻訳

スーパーもすばらしい出来であつたこ

とだ。別の機会でも同じような体験があつた。

鈴木氏がなぜテレビ事情を知つているかといえば、それはインターネットを通じてだという。情報という面だけでいえばテレビとネットは敵対関係ではなく

補完関係にあるという。

今回、私が最も驚かされたのは、中

國の「奮斗」で描かれた若者像が北京の

現在の典型的なものだとパネリストの

ツアン・ウエイという若い女性が言い切

ったことである。そしてツアン・ウエイ

の点をもつて21世紀に向かつている

のかを、それぞれの番組を通じて認識

し、共同制作番組を通じて未来へ志向

する若者像を模索してみました。

3、日韓中テレビ制作者フオーラム大賞

を実施することにより、作品の質を競

うという要素を加味し、名実ともに国

際的に権威ある大賞へと発展させ、

我々のフオーラムが三か国の人々の

幸福と平和と調和に寄与する模範的

なものとなるようベストを尽くします。

2、北京オリンピックが大成功に閉幕

した直後に行つた私たちの福岡大会は、

東アジアで共に生きるというスローガンの下で、日韓中三か国の若者たちが、はたしてどのような共通点と違

う、日本社会の閉塞性を表している現象なのかもしれない。

社会学者の鈴木謙介氏は、中国や韓国

の若者ドラマには教育の問題が出てくるがそれは発展途上国として将来の可

能性があるからで、日本の若者ドラマにはもはや夢はなくなつていて、という指

摘は重かつた。ちなみにテレビを見ない

かといえば、それはインターネットを通じてでもAクラスで、また翻訳

スーパーもすばらしい出来であつたこ

とだ。別の機会でも同じような体験があつた。

鈴木氏がなぜテレビ事情を知つているかといえば、それはインターネットを通じてだという。情報という面だけでいえばテレビとネットは敵対関係ではなく

補完関係にあるという。

今回、私が最も驚かされたのは、中

國の「奮斗」で描かれた若者像が北京の

現在の典型的なものだとパネリストの

ツアン・ウエイという若い女性が言い切

ったことである。そしてツアン・ウエイ

の点をもつて21世紀に向かつている

のかを、それぞれの番組を通じて認識

し、共同制作番組を通じて未来へ志向

する若者像を模索してみました。

3、日韓中テレビ制作者フオーラム大賞

を実施することにより、作品の質を競

うという要素を加味し、名実ともに国

際的に権威ある大賞へと発展させ、

我々のフオーラムが三か国の人々の

幸福と平和と調和に寄与する模範的

なものとなるようベストを尽くします。

2、北京オリンピックが大成功に閉幕

した直後に行つた私たちの福岡大会は、

東アジアで共に生きるというスローガンの下で、日韓中三か国の若者たちが、はたしてどのような共通点と違

う、日本社会の閉塞性を表している現象なのかもしれない。

社会学者の鈴木謙介氏は、中国や韓国

の若者ドラマには教育の問題が出てくるがそれは発展途上国として将来の可

能性があるからで、日本の若者ドラマにはもはや夢はなくなつていて、という指

摘は重かつた。ちなみにテレビを見ない

かといえば、それはインターネットを通じてでもAクラスで、また翻訳

スーパーもすばらしい出来であつたこ

とだ。別の機会でも同じような体験があつた。

鈴木氏がなぜテレビ事情を知つているかといえば、それはインターネットを通じてだという。情報という面だけでいえばテレビとネットは敵対関係ではなく

補完関係にあるという。

今回、私が最も驚かされたのは、中

國の「奮斗」で描かれた若者像が北京の

現在の典型的なものだとパネリストの

ツアン・ウエイという若い女性が言い切

ったことである。そしてツアン・ウエイ

の点をもつて21世紀に向かつている

のかを、それぞれの番組を通じて認識

し、共同制作番組を通じて未来へ志向

する若者像を模索してみました。

3、日韓中テレビ制作者フオーラム大賞

を実施することにより、作品の質を競

うという要素を加味し、名実ともに国

際的に権威ある大賞へと発展させ、

我々のフオーラムが三か国の人々の

幸福と平和と調和に寄与する模範的

なものとなるようベストを尽くします。

2、北京オリンピックが大成功に閉幕

した直後に行つた私たちの福岡大会は、

東アジアで共に生きるというスローガンの下で、日韓中三か国の若者たちが、はたしてどのような共通点と違

う、日本社会の閉塞性を表している現象なのかもしれない。

社会学者の鈴木謙介氏は、中国や韓国

の若者ドラマには教育の問題が出てくるがそれは発展途上国として将来の可

能性があるからで、日本の若者ドラマにはもはや夢はなくなつていて、という指

摘は重かつた。ちなみにテレビを見ない

かといえば、それはインターネットを通じてでもAクラスで、また翻訳

スーパーもすばらしい出来であつたこ

とだ。別の機会でも同じような体験があつた。

鈴木氏がなぜテレビ事情を知つているかといえば、それはインターネットを通じてだという。情報という面だけでいえばテレビとネットは敵対関係ではなく

補完関係にあるという。

今回、私が最も驚かされたのは、中

國の「奮斗」で描かれた若者像が北京の

現在の典型的なものだとパネリストの

ツアン・ウエイという若い女性が言い切

ったことである。そしてツアン・ウエイ

の点をもつて21世紀に向かつている

のかを、それぞれの番組を通じて認識

し、共同制作番組を通じて未来へ志向

する若者像を模索してみました。

3、日韓中テレビ制作者フオーラム大賞

を実施することにより、作品の質を競

うという要素を加味し、名実ともに国

際的に権威ある大賞へと発展させ、

我々のフオーラムが三か国の人々の

幸福と平和と調和に寄与する模範的

なものとなるようベストを尽くします。

2、北京オリンピックが大成功に閉幕

した直後に行つた私たちの福岡大会は、

東アジアで共に生きるというスローガンの下で、日韓中三か国の若者たちが、はたしてどのような共通点と違

う、日本社会の閉塞性を表している現象なのかもしれない。

社会学者の鈴木謙介氏は、中国や韓国

の若者ドラマには教育の問題が出てくるがそれは発展途上国として将来の可

能性があるからで、日本の若者ドラマにはもはや夢はなくなつていて、という指

摘は重かつた。ちなみにテレビを見ない

かといえば、それはインターネットを通じてでもAクラスで、また翻訳

スーパーもすばらしい出来であつたこ

とだ。別の機会でも同じような体験があつた。

鈴木氏がなぜテレビ事情を知つているかといえば、それはインターネットを通じてだという。情報という面だけでいえばテレビとネットは敵対関係ではなく

補完関係にあるという。

今回、私が最も驚かされたのは、中

國の「奮斗」で描かれた若者像が北京の

現在の典型的なものだとパネリストの

ツアン・ウエイという若い女性が言い切

ったことである。そしてツアン・ウエイ

の点をもつて21世紀に向かつている

のかを、それぞれの番組を通じて認識

し、共同制作番組を通じて未来へ志向

する若者像を模索してみました。

3、日韓中テレビ制作者フオーラム大賞

を実施することにより、作品の質を競

うという要素を加味し、名実ともに国

際的に権威ある大賞へと発展させ、

我々のフオーラムが三か国の人々の

幸福と平和と調和に寄与する模範的

なものとなるようベストを尽くします。

2、北京オリンピックが大成功に閉幕

した直後に行つた私たちの福岡大会は、

東アジアで共に生きるというスローガンの下で、日韓中三か国の若者たちが、はたしてどのような共通点と違

う、日本社会の閉塞性を表している現象なのかもしれない。

社会学者の鈴木謙介氏は、中国や韓国

の若者ドラマには教育の問題が出てくるがそれは発展途上国として将来の可

能性があるからで、日本の若者ドラマにはもはや夢はなくなつていて、という指

摘は重かつた。ちなみにテレビを見ない

かといえば、それはインターネットを通じてでもAクラスで、また翻訳

スーパーもすばらしい出来であつたこ

とだ。別の機会でも同じような体験があつた。

鈴木氏がなぜテレビ事情を知つているかといえば、それはインターネットを通じてだという。情報という面だけでいえばテレビとネットは敵対関係ではなく

補完関係にあるという。

今回、私が最も驚かされたのは、中

國の

参加者の感想

東アジア水準に意識を

主人公のエレス少年は、腹一杯食べるためにお金が一番大切だという。カトマンズの火葬場近くの川のほとりで、蒸気と一緒に付され、川に流される死者の衣類やお金を拾つて生活している。

放送文化基金 成田千代治

父親の暴力に耐え切れず母子4人で街に出てきた。エレス君は酔っ払いの母に戸惑い、一つか二つ違いの兄はシンナーに狂い、友達にはいじめられる、それでも懸命に幼い妹の面倒を見ながら、たくましく一日を生きている。

承俊さんが制作した「神の子供たち」は、アジアとは何か、生きるとは何かを深く考えさせる優れたドキュメンタリーだった。日本でも同じようなテーマを扱った作品はあるが、李さんの作品は、これらをはるかに越えていると感じた。多才どんどん日本でも放送される時代だ。見て面白く、ためになる番組は、国境を越えて視聴者に受け入れられる。ドラマだけでなくドキュメンタリーでも、番組論を展開する時は、東アジアの水準を視野に入れて論じる時期にきたのかもしない。しかし、日本の放送局、制作者に果たして東アジア水準という意識は、あるのだろうか。テレビ全体として見ればもっぱら、国内の同業者の動向等を気にして番組作りをしているのが大勢ではないだろうか。そんな思いを抱かせたフーラムだった。

日本側審査委員長 河野 尚行

健気な少年の姿が、衣食足りた私など
の人生の垢を洗い出し、清めてくれる塩
の働きをしているのだろうか。

遺体を茶毬に付す際、唄われる呪文の
ような歌詞「私達の体に住む人生という
鳥は、少しの間の借り物で、いつか飛び
立つ。私の物でも、あなたの物でもあり
ません」。こういう言葉、生命観には直
ぐに共鳴する。弱いのだ。

一方、中国、韓国、青春ドラマの若者
には虚飾なひ弱さを感じてしまう。そこ
には加熱した投機経済のもたらす時代
のあぶない気配を感じる。

人生を折り返して久しい人間の思い
込み激しい感想ではあります。

無限のテーマ

放送番組センター常務理事 松村直央

アジアには無限のテーマが存在する。
テレビはまだまだそのごく一部しか取
材し放送していない。そう思いました。
上映冒頭から「東と西」、「森林の歌」
大砂漠の「ヨウ」「神の子供たち」と立
て続けの韓国・中国のドキュメンタリー
を見て、そのテーマのディープさとそれ

福岡大会あれこれ

実行委員 長沼 士郎

共同制作の基盤

方正指掌錄卷之三

附錄

今回の福岡大会が、ますます充実したフォーラムになったというその第一の功績は、おそらく「アクロス福岡」の国際会議場が会場になったということであろう。

放送批評懇談会 順部紀生

人生を折り返して久しい人間の思い
込み激しい感想ではあります。が。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

放送番組センター常務理事 松村直央

オーラムだつた。

ドキュメンタリー「神の子供たち」

何故「神の子供たち」に心を揺さぶられるのだろう。

がストレートに伝わる作品に衝撃を受けました。

李さんは三十台の若者で、カメラも自分で回したということだが、韓国には彼のような独立PDが五百人ほどいてテレビの一端を担っているという情報も新鮮であった。

李さんは三十台の若者で、カメラも自分で回したということだが、韓国には彼のような独立PDが五百人ほどいてテレビの一端を担っているという情報も新鮮であった。

を描いて感動させた。若者と共にアートに
した作品の持ち寄りも企画として成功した
と思う。今回はコンクール性を強めたことは
制作者のよりよい作品への熱意と意欲を高めたと思われる。一方共
同制作は地域局同士で進められ、全国レ
ベルではまだ少なく、課題も多いことが



司会 林さやか 石上正憲

席が埋まり始めた会場



村上雅通氏

孫建平氏

金榮希氏

黎鳴氏

崔彰鳳氏

志賀信夫氏

大山勝美氏

鄭秀雄氏



趙能熙氏 音好宏氏



九州国立博物館館長
三輪嘉六氏



奥さんと車椅子で来た
木村栄文氏



通訳陣



羅琴氏

歓迎晩餐会



フェアウェル・パーティー



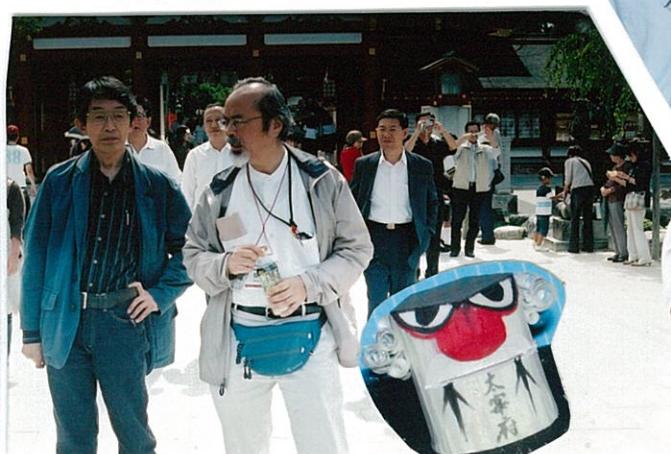
NHK福岡放送局長
石田研一氏



昼食は会場地下1階中華バイキング



会場近くの居酒屋で



参加者の感想・続

示されたが、数年前に比べると共同制作をしやすい基盤ができるのは確かだ。今後個々の課題を解決しつつ、ます

共通テーマでの各国ごとの制作を着実に進めたい。日韓、日中の間で、困難の多い歴史認識や教科書問題でも地道な研究者などの努力が続いていることを考へるとテレビ制作者としてもここで次のステップを踏み出したいものだ。

放送人の構想力と継続の力
実行委員 寒河江 正

最終日のシンポジウムに参加出来なかつたが、放送番組は制作者の鋭く、時に柔らかな構想力に負うところが多いことを改めて実感した。
火葬場で生きる子供たちの日常を描いたドキュメント「神の子供たち」（韓国的作品）を見て思つた。そこには常に死が共存する。
監督の独立PDの李承俊氏は語る「構想は昨年の7月から」「ネバールに行つたのは偶然」「あの現場でさまざまなアイデアをもらった」「私が一番大事にしたのは火葬場に漂つている臭いや雰囲気の中で描くことだ」「出来るだけ子供達に寄り添うように心掛け撮影した」物乞いで生きる少年の母親はいつも酔つていた。「起きてよ」少年は母の体を揺さぶる。悲しく生きる現実の一断面だ。この地球には何十億という人が食べるもののがなく今を生きている。しかし淡々と描いたドキュメント「神の子供たち」は世界の現実を鋭くえぐり、告発し

た普遍的な作品となつた。

グランプリの「やねだん」地方から日本を変える心意気が健在していることに感動した。

ローカル局に身を置くものとして、地方ジャーナリズムとは何かをもう一度考えた。鹿児島、南日本放送局と制作スタッフの皆さんに感謝である。

揺れる韓国の放送界
読売新聞 鈴木嘉一

昨秋、天津で開かれた日韓中テレビ制作のキヤスターとして、『ES細胞作りに成功した』とする黄禹錫ソウル大教授の疑惑をはじめ、労働問題や医療ミス、新興宗教などを告発し、定評を得ている。韓国社会から不正や腐敗がなくならぬ限り、この番組は必要とされる」と言いつける姿勢に感銘を受けた。

しかし、今回、福岡で再会した宋さんは元気がないように見えた。番組を下ろされたというから、無理もない。

米国産牛肉の輸入再開問題で、「PD手帳」はBSE（牛海綿状脳症）の危険性を追求し、大規模な「ろうそくデモ」の火付け役となつた。ところが、「報道内容に歪曲や誇張があつた」として検察の取調べを受けるなど政府の攻撃にさらされ、MBCは「誤訳や一方的な見解があつた」と謝罪した。

公共放送KBSもこの夏、激震に見舞われた。盧武鉉前大統領に近いとされる鄭淵珠社長が「赤字を続けた放漫經營」などの理由で解任されたうえ、背任容疑で逮捕された。保守の李明博政権に批判的な報道が多いと言われるMBCも含め、「李政権による左派の人脈追い落としの一環」との見方もある。

福岡での一夜、韓国の制作者らと飲む機会があった。KBS局員は「弾圧的な人事の嵐が吹き荒れている」と言葉少なに語り、MBS局員からは「民主化が進んだ1980年代以前に逆行しつつある」との懸念を聞かされた。

時の政権とどう距離を取り、放送の独立性、ジャーナリズムの自立性を堅持するか。これは二大政党下にある日本の放送局にとっても他人事ではない。

3 国の若者たち

実行委員 萩野慶人

「若者たち」の軽妙な青春ドラマに、日中韓三国共通の世相を見た。ケータイ、P C、D Vカメラなどを自由と繁栄の象徴に、親たちが築いた競争社会の疑心暗鬼へ若者たちは迷い込む。

太平洋戦争終結から63年、朝鮮戦争停戦から55年。中国も韓国も日本と同様に、劇中人物も制作スタッフも全て「戦争を知らない子供たち」だ。兵役義務はあるが実戦の恐怖は知らない。祖父母たちの修羅場も話に聞くだけだ。

中国代表団はあいかわらず役職者揃いで、建前論や抽象論しか聞けなかつたのは残念で、作品に遜色はなく、学びたい点も多くあるから、現場の作り手たちを自信をもつて送り込んでほしいと、馴染みになつた幹部たち（元締めの中国電視芸術家協会など）に頼みました。さて、体制上どうか。

前回（昨年）交流した天津テレビ局（中国四大テレビ局の一つ）からも一人が参加し、若い万克社長やフォーラム共催の責任者だった李家森主任からの伝言と記念品を手渡してくれ、感激しました。女性の李さん（編成副主任）と、互いに

中国韓国の若いスタッフに、僕たちの過去を責める眼差しは感じられない。

僕はDVカメラを覗きながら、今回は福岡の会場なのに、日本の若いTVマンの姿が映らないのが寂しかつた。

東京では、あの吉田茂の孫が首相に就任、あの小泉純一郎が引退して27歳の次男に地盤を譲る世襲を表明した。

求心力の回復をよろこぶ
実行委員 鈴木 典之

よんどころない私事があつて、参加作品選びに関わった以外は準備作業に加わらず、気をもんでいましたが、成功裡に終わってホッとしました。事務局の山田さん、現地差配役の村上さんのご苦労に頭が下がります。

同時に通訳による全員視聴・全員討議方式への切換えが成功的なカギで、求心力が回復し、今後の方針づけができたことをよろこびます。次回開催の韓国側が触発され、大いにヤル気を見せてくれたのが楽しみです。

中国代表団はあいかわらず役職者揃いで、建前論や抽象論しか聞けなかつたのは残念で、作品に遜色はなく、学びたい点も多くあるから、現場の作り手たちを自信をもつて送り込んでほしいと、馴染みになつた幹部たち（元締めの中国電視芸術家協会など）に頼みました。さて、体制上どうか。

前回（昨年）交流した天津テレビ局（中国四大テレビ局の一つ）からも一人が参加し、若い万克社長やフォーラム共催の責任者だった李家森主任からの伝言と記念品を手渡してくれ、感激しました。女性の李さん（編成副主任）と、互いに

腕を交叉させる中国式乾杯をし、返礼としました。

ドキュメンタリーは面白い

熊本放送 井上佳子

今回の制作者フォーラムは、全日程の半分くらいしか参加できず、鑑賞した作品もエントリー作品全体の三分の一程度にとどまった。偏った見方になるかもしないと危惧しつつ、発言を許していただけたなら、やはり、ドキュメンタリーは面白い、ということに尽きる。

中でも、南日本放送の山縣由美子さん

の「やねだん」がグランプリを受賞したことなども嬉しかった。鹿児島の一地域を丹念に定点観測し、地域の変化とそこに住む人たちの変化を温かく描き、今後の地域のありようを指し示していた。

山縣さんは、ニュースの企画を積み上げて番組に仕上げたと話されていた。限られた制作費の中で、地域との信頼関係を築くことが至上命令とされる地方局の今後のひとつ重要な指針も、示してもらったような気がした。そういう意味でも、とても励まされたフォーラムだった。

フォーラム所感

放送人の会 北村 充史

旧福岡県庁跡にできたアクロス福岡には、すばらしいコンサートホールや国際会議場などがある。

その会議場で行われたテレビ制作者フォーラムは、連日充実した内容だった。

欲を言えば、地元福岡の放送関係者にもっと参加してもらいたかった気がある。

番組改編期とか、総選挙前の取材でお忙しいのはわかるが。

2ヶ国通訳による進行など、フォーラム運営関係者のご苦労は多とするが、今後の希望として、中国・韓国の出席者の概要が知りたかった。交流しようにも手がかりがなく、結局下手な英語で一人二人と口をきいた程度。

それと、閉会式で出された「宣言」も、解散までに（翻訳入りの手書きコピーでも）配布したほうが、締めくくりになつたと思う。

福岡大会の裏方に徹して

放送番組センター 篠 昌一

今回は、実行委員会委員として（財）JKAや文化庁支援などの開催経費の助成・補助金関連を協力する程度と考えていたが、運営の中心を担つた放送人の会・山田氏、熊本放送の村上氏と共に参加者の受け入れ、宿泊や食事手配、会場や行事運営、地元の協力会社との連絡・依頼など全般にわたつて担当する役目となつた。現役世代として本来業務との両立で正直多忙な日々でもあった。しかし、百人を超す参加者の四日間に亘るイベントが、大きな問題もなく当初計画通り終了できたことにホットしている。

参加番組の質疑応答やシンポジウムの他に、日本では今回初めて一般市民向けの「韓国・中国最新番組上映会」を同時開催したが、毎回二〇名を超える参加者で、多い回は四〇名近くとなり安心し

た。組織委員長である鄭監督の『帰らざる海峡』を鑑賞した方から「感銘した。この歴史の事実をもっと知らせるべきだ。新聞に投稿したい』市内の教師も「子供達にぜひ見せたい」との感想を寄せてくれた。二六日の国際シンポジウムには学生や主婦、会社員など十五名が参加、

同通レシーバーの追加など嬉しい忙しさもあつた。

実行委員会の中核となる「放送人

会」内からの責任者や担当者の明確化、運営事務局体制などを見直すべきではないか。フォーラムの今後の充実と継続のためにあえて注文したい。

※横浜の放送ライブラリーで『韓国・中國最新テレビ番組上映会』開催中、全十

二番組、十一月三日まで。

身振り手振りの交流

実行委員 伊藤 雅浩

カメラマンとして目障りだと思われるのを覚悟して会場ではシャッターを切りつけたのだが、帰宅して現像に出すと写真の半分はカメラの故障でNGである。シャッターが上の3分の1開かず、その部分は黒くなっている。長年カメラを使つてきたつもりだが、こんな故障は初めてで、撮影中は全く気がつかなかつた。何とか使えるものを寄せ集めて会報は作つたが、期待されているであろう記念写真にはNGが多く、お渡しできなくなつてしまつた。ここでお詫びを申し上げます。ごめんなさい。

何回かこのフォーラムに参加すると韓国、中国の参加者にも馴染みができる、社会が生まれていると私は実感した。



通訳の人は初めての人でも昔からの友人のように話をしてしまう。私は言葉でなくて身振り手振り専門だが、韓国の若者ドラマの中に出で来た「指切りげんまん」のしぐさが気になつたので通訳の女性に聞いてみた。最初は小指と小指を合わせて何から親指と親指を合わせる、（写真参照）そして何か約束をしてお互いの手のひらをスーっと1回擦

り合わせる、これが韓国風「指切りげんまん」のやり方だ。日本風より情がこもる。やり方を教わつて「来年の韓国のフォーラムで会いましょう」と約束をしてしまつた。「ナンバだなあ」と私をにらむ日本人男性がいたが気にしない。中国の「奮斗」のP、ツォン・ウェイさんは通訳を介して率直に質問した。彼女の肩書は北京鑑（金が3つの漢字です）寶源影视投資有限公司、編集總監である。「大学を卒業して建築家としてどんどん稼げるは特殊なエリートでしょう。ファッショニ・デザイナーとしてフランス留学を簡単に考えられるのもやはり特別な人でしょう。一般視聴者には縁遠い男女の物語ではないのですか？」「いいえ。普通の大学の建築学科を卒業した男と普通の洋裁学校を卒業した女の物語です。北京にはお金持ちがけつこういますし、視聴者は特別な人とは思いません。」「あなたの会社もあなたもどんどん稼いでる？」「はい」。彼女の会社は映画、テレビ番組の制作プロダクション、タレンツ事務所を兼ねる大会社であり、彼女はエリート社員だ。「奮斗」は彼女と等身大の若者の物語らしい。凄い格差



「若者」をテーマにした日韓中英四国制作のシネマコンペティション「東京国際映画祭」が、来年1月に開催される。運営委員会は、この度、第3回回目の開催地として、中国上海市に決定した。
「若者」をテーマにした日韓中英四国制作のシネマコンペティション「東京国際映画祭」が、来年1月に開催される。運営委員会は、この度、第3回回目の開催地として、中国上海市に決定した。
「若者」をテーマにした日韓中英四国制作のシネマコンペティション「東京国際映画祭」が、来年1月に開催される。運営委員会は、この度、第3回回目の開催地として、中国上海市に決定した。

「若者とネット」

ドラマに見る若者意識

第8回日韓中
フォーラム

コラージュ 新聞各紙の反響

冒頭、韓國の金聲雄・フの若者の特質として一生懸命に活動した。しかし、その活動は、やがて高麗に關係なく田舎をための道徳として、これが代へて感覚を共有していく。時代へと進むにつれて、この感覚は、使われる。逆に日本ではまだ使われる。つまり、日本ではまだ使われる。



3カ国のテレビ関係者が議論したシンポジウム

统一日報 (10月1日)

韓日中3カ国 100人が意見交換

る。日本の若者や取り組んでいた
所をもつてゐる。この辺は、
番組の共同制作
韓国提案に拍手
共同制作の現状と方向性に
ついても論議された。大山勝
美・日韓企画委員長(出張)
題材から手続の決定に至るまで
で難航した事例を挙げ、「出
導権がかかるのが遅いが間に合
た編集を交換して、一方がアシ
ルの公共放送と一緒にアシ
アから企画を立て、ドキュメ
タリードラマを作ります。ドキュメ
クトも報じた上で、「歐米な
ら見たアシ像ではなくア
ジの視点でアシの姿を全
世界に伝えてみたい」と述べ
次のフオーラムは終り、韓
国で開かれず、韓国側も明言
式で「韓日中の共同制作を実

レビ制作者「オーラム」が福岡市で開かれた「放送入の会」などから国連の制作団体が選んだ番組を通じて、上映と討議を通じて交換を深め、共同制作を推進するのが目的だ。

◆地域密着 番組作りのお手本

参加者の投票率で6本に絞り、審査会にかけた結果、南日本放送の「やねだん」がグランプリに輝いた。

* シンポジウムの模様は別項の案内のように『東アジアの若者たちは今』／日韓中共同制作 ◎ 10月25日(土曜)NHK衛星放送BS2

說壳新聞
10月7日

毎日新聞 夕刊 10月2日

東京新聞 テレシネ・テレヒューリー
10月1日

1

8月30日（横浜・情文ホール）

『ずっとあなたが好きだった』（TBS）

ゲスト——賀来千香子 佐野史郎

野際陽子 貴島誠一郎（P）

司会 堀川とんこう

「冬彦さん現象」の話題を生み、ネット上では今なお書き込みが盛んな連続ドラマ（92年）。豪華ゲストのトークもあって満員の盛況だった。



まず貴島プロデューサーは当初、トルネディードラマとは異質な「ロミオとジュリエット」風な純愛ドラマを考えていたが、佐野史郎の怪演？で「冬彦」キャラが大反響を呼び、テーマを少子化社会の病理といえるマザコン現象に置き換え、初回は13%あまりだった視聴率が急上昇、最終回では34.1%に達したと経緯を語る。



「今日は、冬彦です」と笑いをとて登場した佐野は、無名の俳優（状況劇場）に過ぎなかつた彼が電車で視線

を浴び妙な雰囲気が漂うのに気がつき、ヒットを予感したと言う。

野際陽子は「印象に残るのは自転車が転倒し血を流してたわたしに冬彦が指で何度もなめるシーン。あれで冬彦をめぐるこの親子の異常な関係に演技の方向がつかめた」という。



また賀来千香子は大きく瞠目した眼技で恐怖と虚脱の表情に複雑な愛をしのばせた演技でお嬢様女優開眼のきっかけをつかんだと。



現実の表・裏を正面から向き合い主題に迫る、というテレビドラマ本来の文脈をつらぬいた作品はしかし、第一回の視聴率は僅かに13・0%という低空飛行でスタート。先行きが案じられたが、女性週刊誌が「冬彦さん」ブームを報じ、F1層を中心に口コミで噂が轟を呼び、斜高線状に数字は伸び、最終回は31・1%という大台を記録した。社会現象ドラマといわれたゆえんである。時代はすでに転換期に入り、男女雇用均等法とバブル熱に支えられたトルネディードラマ風俗が衰微し、同時にトルネディードラマ編成の低迷が始まっていた。以後平成に入るとITやケイタイなどのブロードバンド化で週一回の連ドラ視聴習俗に陰りが見えてきていた。『ずっとあなたが…』の成功事例は示唆的である。（敬称略 M）



現実の表・裏を正面から向き合い主題に迫る、というテレビドラマ本来の文脈をつらぬいた作品はしかし、第一回の視聴率は僅かに13・0%という低空飛行でスタート。先行きが案じられたが、女性週刊誌が「冬彦さん」ブームを報じ、F1層を中心に口コミで噂が轟を呼び、斜高線状に数字は伸び、最終回は31・1%という大台を記録した。社会現象ドラマといわれたゆえんである。時代はすでに転換期に入り、男女雇用均等法とバブル熱に支えられたトルネディードラマ風俗が衰微し、同時にトルネディードラマ編成の低迷が始まっていた。以後平成に入るとITやケイタイなどのブロードバンド化で週一回の連ドラ視聴習俗に陰りが見えてきていた。『ずっとあなたが…』の成功事例は示唆的である。（敬称略 M）

第22回 名作の舞台裏

『家政婦は見た！』（テレビ朝日）

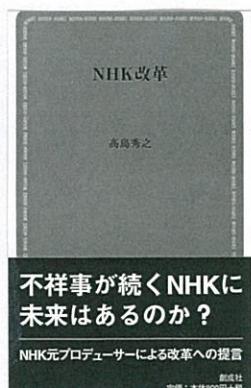
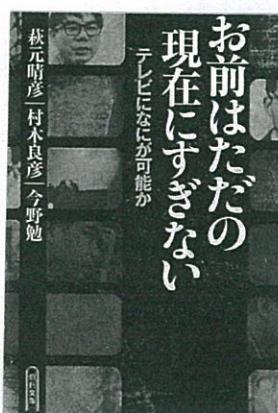
08年11月8日（土）開場13・00時

於 情文ホール（放送ライブラリー）

ゲスト 市原悦子 野村昭子
柳田博美（大映テレビ）
司会 堀川とんこう

*会員の皆様には席を用意しております。お気軽に横浜へ…

NHKへの問い合わせ、国家論の域に迫る取材の内実、既存の放送論を全否定する青春論としての幻の書！復刻。いざれも読みがいタップリの快著です。



・『NHK改革』

（創成社 800円）

・『中国 夢と流転』

角英夫

（朝日文庫 1155円）

・『お前はただの現在にすぎない』

萩元晴彦 村木良彦 今野勉

（朝日文庫 1155円）

・庶民たちの改革開放

角英夫

（朝日文庫 1155円）

第十回放送人句会

◇平成二十年九月十日（水） ◇於：麦屋

□ 出席：伊藤視郎、大山勝美、荻野慶人、小池勝次郎、

新村もとを、松尾鷦笑、西川阿舟

◇不在投句：山県ばん太

◇兼題：新米、夜長、受付

おはやうございますと良夜の受付嬢 阿舟 （◎視）

新米の炊き上りたる光かな ばん太（◎美、馬、舟）

長き夜の端唄流るる裏小路 もとを（◎慶、次、馬）

新米や混じる穂先に田の匂ひ 馬笑（◎次、◎も、

長き夜や天動説を捨てきれず 視、美、慶）

受付に夜長を託つ顔一つ ばん太（◎舟）

受付に薄飾られ月今宵 阿舟（視、慶、も）

新米を褒めつつ石油の話など もとを（視、馬）

秋風を受けつけぬ街百日紅 慶人（視）

新米の炊き上りたる笑窪かな 阿舟（視、慶、も）

泥棒のゆつくり逃げる夜長かな 視郎（美、慶）

トリスバー待ち人恋し夜長かな 勝次郎（美）

早稻の飯宴の膳の主となり 勝次郎（美、舟）

新米のあつあつご飯てんこ盛り 視郎（美）

終列車過ぎたる後の夜長駅 ばん太（慶）

汚染米新米どきに水をさし 勝次郎（慶）

隣室の睦言絶えぬ夜長かな 勝美（次、舟）

帰農せし友より来る今年米 阿舟（次）

秋の宵受付終う茶髪つ子
五輪終え読書のもどる夜長かな

慶人（次、も）
勝美（次）
勝美（次、も）
視郎（も）
勝次郎（も、舟）

初日・特別イベント
『放送人の会』パネルディスカッション
『～新たなメディアの“風”の可能性と変化～』

『～新たなメディアの“風”の可能性と変化～』

ロードキャスティング・クリエーター達が、デジタル・

マルチメディア時代における放送の様々な可能性を探る

（InterBEE）の場を借りて、日頃番組づくりに懸命のブ

ハイテク革新技術最先端を網羅展示する国際放送機器展

（InterBEE）の場を借りて、日頃番組づくりに懸命のブ

ハイテク革新技術最先端を網羅展示する国際放送機器展

（InterBEE）の場を借りて、日頃番組づくりに懸命のブ

ハイテク革新技術最先端を網羅展示する国際放送機器展

（InterBEE）の場を借りて、日頃番組づくりに懸命のブ

ハイテク革新技術最先端を網羅展示する国際放送機器展

本音のトークセッション・第11回。

日時・11月19日（水）午後3時～5時半

場所・幕張メッセ 国際会議場2F 国際会議室

●パネリスト

風間 正氏（映像作家、芸術学博士、明星大教授）

『情報負荷社会とテレビ』

木谷 友亮 氏（WEBデザイナー）

『WEB界の“カイブツ”』

やまだ 紫氏（漫画家、京都精華大教授）

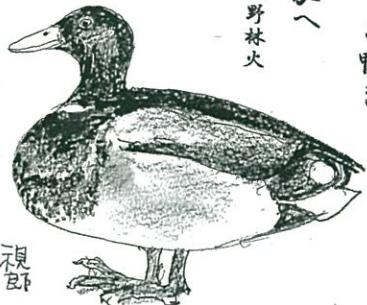
『団塊・漫画家の立場から』

大山 勝美 氏（演出家、放送人の会特別顧問）

『テレビ原人の逆襲』

●司会・進行 基調講演

今野 勉 放送人の会代表幹事



視郎

InterBEE2008

【あ】青木裕子 赤井朱美 秋田完 新井和子 有馬哲夫 石井彰 【い】石井清司 石井ふく子 石橋冠 磯野恭子
 磯村健二 市岡康子 一色伸夫 伊藤雅浩 井上良介 岩澤敏 【う】上田千秋 碓井広義 歌田勝彦 宇野昭 浦田彰
 【え】江口辰之 遠藤利男 遠藤ふき子 遠藤雅充 【お】大蔵雄之助 太田敬雄 大西康司 大西文一郎 大野木直之 大原誠
 大原れいこ 大山勝美 大類啓 大脇明 岡弘道 岡崎栄 岡田晋吉 緒方陽一 岡村黎明 小河原正巳 沖野暉 萩野慶人
 小田久榮門 織田晃之祐 【か】加賀美幸子 各務孝 片岡敬司 片島紀男 勝部領樹 加藤滋紀 加藤静夫 金沢敏子
 兼歳正英 金平茂紀 加納孝夫 川平朝清 上安平冽子 鴨下信一 川口健一 川口幹夫 川竹和夫 河邑厚徳 河村正一
 【き】岸田功 北川泰三 北川信 北出晃 北村美憲 北村充史 木村栄文 木村成忠 【く】楠美昌 工藤英博 隅部紀生
 【二】小池勝次郎 河野尚行 児玉孝光 児玉久男 後藤和晃 小中陽太郎 小南武朗 近藤晋 今野勉 【さ】斎藤伸久
 斎藤秀夫 斎明寺以玖子 酒井美樹男 寒河江正 坂元良江 桜井均 桜井元雄 佐々木彰 佐々木欽三 佐藤秀山 佐藤利明
 佐藤年 澤田隆治 沢田隆三 【し】重延浩 重村一 静永純一 嶋田親一 清水満 下重暁子 城菊子 【す】菅野高至 杉澤陽太郎
 杉田成道 鈴木昭典 鈴木克明 鈴木典之 鈴木道明 須磨章 【せ】せんばんよしひ 【そ】曾根英二 【た】高島秀之 高戸晨一
 高橋一郎 高橋啓 滝大作 武谷雅博 田澤正稔 田中昭男 田中直人 田原英二 田原茂行 【ち】千葉勉 【つ】露木茂
 鶴橋康夫 【と】土居原作郎 堂本暁子 戸田佳太 外崎宏司 富永卓二 土門正夫 【な】中崎清栄 中澤忠正 中島僚
 中田美知子 中谷英世 長沼士朗 永野敏一 中村敦夫 中村克史 中村季恵 中村耕治 中村美美子 中山和記 難波秀哉
 【に】新村もとを 西ヶ谷秀夫 西川章 丹羽美之 【の】野崎茂 信井文夫 【は】萩野靖乃 橋本潔 林健嗣 林裕史 原由美子
 原田庸之助 【ひ】久野浩平 備前島文夫 【ふ】深町幸男 福田雅子 藤井潔 藤井チズ子 藤田晋也 藤久ミネ 【ほ】星田良子
 堀川とんこう 【ま】松尾羊一 松平定知 松前洋一 松本明 松本修 松本国昭 【み】三上義智 水上毅 水野憲一 三村景一
 三村千鶴 宮川鑑一 三宅恭次 明神正 【む】村上光一 村上雅通 村上佑二 村田亨 【も】守分寿男 諸橋毅一
 【や】八木康夫 矢島良彰 菅内広之 山県昭彦 山崎隆保 山崎裕 山路家子 山田尚 山田良明 大和定次 山根基世
 【ゆ】湯浅和憲 【よ】横沢彪 横山英治 吉澤保 吉永春子 吉村直樹 吉村光夫 【わ】和田智允 渡辺紘史

新会員紹介：高戸晨一（元テレビ朝日）・永野敏一（元TBSビジョン）・織田晃之祐（元NHK音響）

放送人の会・2008年度体制

名譽会長 川口幹夫
 幹事特別顧問 大山勝美
 代表幹事 今野 勉

【幹事】石井彰、石井清司、石橋冠、磯村健二、伊藤雅

浩、荻野慶人、加賀美幸子、金平茂紀、北村充史、斎
 明寺以玖子、寒河江正、坂元良江、桜井均、鈴木典
 之、長沼士朗、西川章、萩野靖乃、林健嗣、久野浩平、
 堀川とんこう、松尾羊一、村上雅通、山路家子、山田
 尚、隈部紀生、小池勝次郎、渡辺紘史

【事業委員会】委員長 萩野慶人

☆放送人の証言 ○久野浩平、隈部、大山、萩野

☆名作の舞台裏 ○石橋冠、荻野、堀川、林

☆放送人の世界 ○今野勉、坂元、桜井

☆人気番組メモリー ○大山勝美、加賀美

☆ドキナントリー ○鈴木典之、桜井

☆シンボウム ○齊美等以玖子、金平、山路

☆研究会 ○石井清司、坂元

☆会員交流 ○西川章、伊藤

☆地域交流 ○村上雅通、林、寒河江、磯村

☆日韓中 ○山田尚、村上、鈴木、河野尚行、長沼

☆放送人格ランプリ ○堀川とんこう、北村

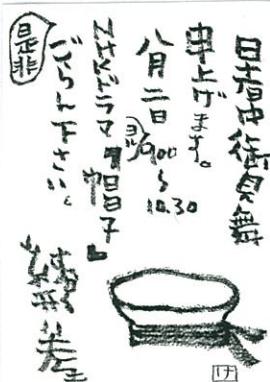
☆放送人格ランプリ ○堀川とんこう、北村

中野曠三さん

さる9月22日 永眠なさいました。

中野さんは読売テレビ時代は『巨人
 の星』『いじわるばあさん』、なかで
 も『木曜ゴールデン劇場』『遠くへ行
 きたい』などテレビ史に残る名番組の
 創設に尽くし、日本テレビ取締役を経
 てテレビマンユニオン監査役を務め、
 テレビ制作を支える営業のありかたを
 重視し、活躍されました。 （享年82）

編集後記



計報

テレビドラマを愛する人たちに限定
 して送られた暑中見舞いです。思えば
 「帽子」（NHK広島）は永い旅立ち
 にふさわしい作品でした。今、録画保
 存の「万里の長城」（91年 TBS）
 を見ました。登山帽を被つて砂漠に埋
 もれた長城を、まるで浄土をさまよう
 よう旅僧侶の幻視行のごとく絵形拳。
 日韓中イン福岡、運営に尽力された
 皆様、ありがとうございました。来年
 は温陽（韓国）とか。鄭秀雄さんによ
 れば李氏朝鮮時代の世宗大王が愛した
 忠清南道は百濟の古都の温泉保養地だ
 そうです。楽しみにしましょう。（M）